

長野県教育委員会

教育長 原山 隆一 様

南信州地域の高校の将来像について  
意見・提案書

令和2年1月20日

南信州地域の高校の将来像を考える協議会

# 南信州地域の高校の将来像について 意見・提案書 目次

## はじめに

### 1 南信州地域の高校の現状

- (1) 「第1期長野県高等学校再編計画」における再編統合等の状況
- (2) 各公立高校における在籍生徒数及び学級数
- (3) 中学校卒業者の高校進学状況
- (4) 各校の教育活動における取組み（探究的な学び、信州学、地域との連携等）

### 2 南信州地域の高校教育の課題

- (1) 少子化を踏まえた高校の将来像の検討について
- (2) 多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校の必要性について
- (3) 地域と連携した学びの推進について

### 3 南信州地域の高校の学びのあり方（将来像）に向けた意見

- (1) 生徒にとってより良い高校の学びのあり方
- (2) 地域にとってより良い高校の学びのあり方

### 4 課題解決に向けた取組み

- (1) 多様な生徒の生活・学習スタイルに応えるため多部制・単位制の機能を補完する仕組みを備えた新たな夜間定時制課程の設置
- (2) 地域と連携した学びの取組み
- (3) 中長期的な課題に対する検討

## おわりに

### <資料>

- I 南信州地域の高校の将来像を考える協議会 設置要綱
- II 協議会での検討経緯
- III 協議会委員名簿

## はじめに

私たちは今、グローバル化、高度情報化等の大きな進展の中で、社会情勢や産業構造が大きく変化するとともに、価値観の多様化が進む時代を迎えています。また、急激に進行する少子高齢化によっていまだかつてない人口減少時代を迎えつつあります。

特に少子高齢化の波は、地域の産業における人材の不足、地域住民の命と健康を守る医療関係者の確保、代々引き継がれてきた農業従事者の減少、歴史と伝統ある地域文化の継承者等、様々な分野に影響を与え、人材の育成や確保が地域の発展に欠かせない重要な課題となっています。

また、リニア時代を迎える南信州地域においては、リニア交通網による地域の発展に期待を寄せる一方で、少子高齢化だけではない「地域人材の流出」といった課題にどのように対応していくかが求められています。

このような少子化の状況や地域の課題を踏まえ、次代を担う子どもたちの学びについて、南信州地域の高校での学びのあり方や、将来を見据えた高校の将来像について、議論を深めてきました。

南信州地域では、次代を担う子どもたちの学びの一環として、モデル的な取り組みを行ってきています。

一つは、高校と大学、地元自治体との連携による、これからの地域社会に求められる人材の育成を目指す「地域人教育」です。地元の高校生が、地域を知り、地域と関わる主体的な参加体験等の体系的な学びを通じて、自らの人生を切り拓いていく力をつけるとともに、地域に心の根を置き、誇りをもつことができる人材の育成に一定の成果を挙げています。

また、21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくりをコンセプトにした「学輪 I I D A」を平成23年度に設立し、研究者同士が相互に知り合い親交を深め、研究や取り組みを地域とともに行ってきており、「知のネットワークによる共創の場づくり」を目指しています。

南信州地域は、長野県内でも温暖な気候に恵まれ、豊かな自然が育まれているとともに、確かな地域ネットワークの構築がなされてきました。公民館組織の充実も当地域の特長です。それらの地域資源も活用しながら、新たな時代の担い手であるこれからの子どもたちにとって、魅力ある有意義な学びの場が構築されることを願い、地域の発展につながる南信州地域の学びのあり方と、現時点で考えられる高校の将来像について意見・提案をいたします。

## 1 南信州地域の高校の現状

南信州地域の第1期長野県高等学校再編計画での再編統合の状況や、各校の在籍生徒数及び募集学級数、中学生の進路状況及び各校の教育活動における取り組み等の現状について以下に掲げる。

(1) 「第1期長野県高等学校再編計画」における再編統合等の状況

1990年（平成2年）の2,830人であった中学校卒業生数が、2008年（平成20年）には1,852人まで減少し、学校規模の縮小が見られた。

このような少子化の状況を踏まえ、2013年（平成25年）に飯田工業高校の全日制と飯田長姫高校の全日制を再編統合し、飯田OIDE長姫高校全日制（工業科・商業科）を開校した。

また、飯田工業高校定時制の工業科と飯田OIDE長姫高校定時制の普通科を再編統合し、飯田OIDE長姫高校定時制（普通科・工業科）を開校した。

(2) 各公立高校における在籍生徒数及び学級数（2019年（令和元年）5月1日現在）

ア 全日制（阿南高校の1学年の募集定員は80名（2学級規模））

学校名	学科	在籍生徒数	全体学級数	1学年学級数	2学年学級数	3学年学級数
松川	普通科	377	10	3	3	4
飯田	普通科	635	16	5	5	6
	理数科	120	3	1	1	1
飯田風越	普通科	597	15	5	5	5
	国際教養科	120	3	1	1	1
飯田OIDE 長姫	工業科	576	15	5	5	5
	商業科	241	6	2	2	2
下伊那農業	農業科	478	12	4	4	4
阿智	普通科	316	9	3	3	3
阿南	普通科	220	9	3	3	3

イ 定時制

学校名	学科	在籍生徒数	全体学級数	1学年学級数	2学年学級数	3学年学級数	4学年学級数
飯田OIDE 長姫	普通科	76	4	1	1	1	1
	工業科	25	4	1	1	1	1

(3) 中学校卒業者の高校進学状況

ア 旧第9通学区の中学校卒業者の高校進学状況

内 訳	人 数	割 合
旧第9通学区の高校へ進学	1,494人	92.7%
・公立高校へ進学	1,286人	—
・私立高校へ進学	208人	—
上記以外の高校へ進学	117人	7.3%
・旧第8通学区の公立高校	23人	—
・県内私立高校（旧第9通学区以外）	46人	—
・その他（県外含む）	48人	—

イ 旧第9通学区の公立高校への入学状況

内 訳	人 数	割 合
旧第9通学区の中学校から入学	1,286人	96%
上記以外の中学校から入学	54人	4%
・旧第8通学区の中学校	49人	—
・その他(県外含む)	5人	—

\*各数値は2015年度～2017年度(平成27年度～平成29年度)の3年間の平均値(全日制)

(4) 各校の教育活動における取組み(探究的な学び、信州学、地域との連携等)

ア 全日制課程

(ア) 松川高校(普通科)

①探究的な学び

- ・「松川高校式進路チャート」による各教科と連携した他者と語り合う学びの実践
- ・エリア教育(進路実現の基盤になる教科・科目群を4つのエリアとして設定)の中の「課題探究エリア」での自己、コミュニケーション、地域社会についての研究・発表

②信州学

- ・地歴公民科「人文社会研究」での「地域史・満蒙開拓」におけるフィールドワークや語り部による授業
- ・農業科目「環境緑化」でのそば打ち体験
- ・ボランティア部の「満蒙開拓の歴史を語り継ぐ」取組み

③地域との連携

- ・生徒会による松川町の事業と連携した「松川町花いっぱい運動(15年目)、東北支援「花という笑顔を東北へ」(8年目)
- ・ボランティア部による「石巻に届けるりんごひと箱キャンペーン」(9年目)

(イ) 飯田高校(普通科・理数科)

①探究的な学び

- ・RESAS(人口動態、産業構造、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約し可視化するシステム)を活用した探究学習
- ・理数科課題研究の実施と報告書の発行
- ・キャリアプランとサクセスプランを相乗的に活かす「高松プロジェクト」(進路指導計画)の開発

②信州学

- ・地元調べ(地域探究)、フィールドワークの推奨
- ・インクエリ・トリップ(進路研修旅行)において大学を訪問し、地域探究等の成果を大学で発表

### ③地域との連携

- ・飯田市産業振興課主催の高校生と地元企業とを「つなぐ」事業への参加
- ・飯田市企画課主催の大学のフィールドスタディ等を通して高校生が大学生や大学院生とともに学ぶ事業への参加

## (ウ) 飯田風越高校（普通科・国際教養科）

### ①探究的な学び

- ・普通科2年次必修科目の「社会と情報」での個人及びグループごとに研究テーマを設定して取り組む調査研究
- ・国際教養科2年次必修科目の「課題研究」における各自の研究テーマによる探究活動

### ②信州学

- ・南信州地域または長野県に関わる内容を研究テーマに設定した探究的な学びの実践

### ③地域との連携

- ・南信州地域を中心に活躍する講師陣による講演会
- ・学輪 I I D A 共通カリキュラムへの参加
- ・飯田国際交流推進協会、飯田市における人権・男女共同参画・多文化共生の諸事業への協力

## (エ) 飯田O I D E長姫高校（工業科・商業科）

### ①探究的な学び

- ・「環境」「地域資源」「ビジネス」を各学科の共通テーマとして融合学習への取り組み
- ・「地域人教育」を全学科で系統的に学習
- ・「未来のものづくり委員会」（工業科学科）、「夢まちづくり委員会」（建設系学科）、「地域人教育三者連携」（商業科学科）の3つのコンソーシアムでの産学官と連携した教育活動

### ②信州学

- ・全学科「地域人教育」で実施
- ・工業系学科：地域事業所と連携した課題解決に向けた具体的なものづくりの実践
- ・商業系学科：飯田市、松本大学、飯田信用金庫と連携したまちづくりとビジネスを繋ぐ地域人材の育成
- ・地域企業や製品の強みを学び、学んだ知識を活かし地域で活躍する人材の育成

### ③地域と連携した活動

- ・「未来のものづくり委員会」「夢まちづくり委員会」「地域人教育三者連携」を「地域人協働推進委員会」で統括し、各学科の横断的な学びを調整

- ・コンピューター制御部の「テックレンジャー」、原動機部エコカーの飯田自動車学校との連携等の取組み

(オ) 下伊那農業高校（農業科）

①探究的な学び

- ・電子黒板を利用したデジタル教材の活用及び調べ学習等におけるタブレット端末の活用
- ・R E S A Sの使用による統計データを活用した探究学習
- ・農業科伝統の「プロジェクト学習」での課題研究

②信州学

- ・地域果樹産業の振興につながる研究・技術開発
- ・ジビエ等の地域資源の活用と棚田保全を通しての地域交流
- ・茶やシードル等の地域素材を活かした食品加工の研究及び地域交流

③地域との連携

- ・信州黄金シャモ：普及プロジェクト
- ・信州ジビエ：アグリレストラン
- ・花いっぱい交流と平谷村観光興し
- ・南信州茶の利用拡大と魅力発信

(カ) 阿智高校（普通科）

①探究的な学び

- ・学校内外の研修等を通じて新たな学力観についての共通認識の醸成
- ・全職員、全教科による探究的な学びにつながる授業への転換や、それぞれの生徒の実情に合った授業への改善
- ・I C T機器を活用した授業改善

②信州学

- ・総合的な探究の時間や2年次からの「地域政策コース」での学びの推進
- ・阿智村の観光・農業・福祉等や、南信州地域の産業を題材とした体験的な学習を中心とした学び

③地域との連携

- ・管内企業、満蒙開拓平和記念館等との連携
- ・あふち保育園での保育実習
- ・地域政策コースでの取組み（観光：阿智村、阿智☆昼神観光局等、農業：阿智村産業振興公社等、福祉：阿智村社会福祉協議会等）

(キ) 阿南高校（普通科）

①探究的な学び

- ・I C T機器を活用した授業改善
- ・授業研究旬間を設定し教科を超えた授業改善への取組み

- ・ R E S A S を活用したパイロット的な授業の実践

## ②信州学

- ・ 教育課程研究指定事業（伝統文化教育）指定校により、泰阜太鼓、正月飾り、けもかわ、郷土食などの伝統文化の継承の各教科での取組み

## ③地域との連携

- ・ 阿南一中との相互授業参観、クラブ間交流会
- ・ 阿南病院、阿南学園等の町内各種福祉施設での多様な実習
- ・ 生徒会、部活動での「地域への貢献」の視点に立った環境美化活動
- ・ 吹奏楽部、華道部、郷土芸能同好会、ダンス同好会等の地域行事への参加

## イ 定時制課程

### (ア) 飯田O I D E 長姫高校（普通科・工業科）

#### ①探究的な学び

- ・ 始業前のベーシック講座等による個に応じた学力の伸張の支援
- ・ 学習状況を把握し、各教科においての「学び直し」等を通じて、わかりやすい授業及び基礎学力の定着につながる授業改善の取組み

#### ②信州学

- ・ 教育振興会と連携し、地元企業の調べ学習や就労体験を通じての生徒の自立支援
- ・ 自校給食を通じて地産地消や郷土食についての理解を深める取組み

#### ③地域との連携

- ・ 地域の助産師を招いての性教育、命の教育の講演会の実施
- ・ 未就労の生徒への就業体験の機会による進路保障の取組み
- ・ 電気工芸部でのオリジナルゆるキャラ製作を通じた地元イベント参加

### \* 探究的な学び（「学びの改革 基本構想」（長野県教育委員会）より）

日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、そこにある具体的な問題について情報を収集し、その情報を整理・分析したり、知識や技能と結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、明らかになった考えや意見などをまとめ、表現し、またそこから新たな課題を見つけていくという学習のプロセス。

### \* 信州学（「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」（長野県教育委員会）より）

「信州について学ぶ」だけでなく、「信州において」「信州から」学ぶことを包含した探究的な学び。新しい学校づくりの中でも探究的な学びの中心的なテーマとして位置付けていくことが望まれる。

## 2 南信州地域の高校教育の課題

南信州地域の高校の現状を踏まえ、この地域の高校の将来像を検討していくにあたり、今後さらに進行が予測される少子化への対応や、多様な生徒の生活や学習スタイルへの対応及び地域と連携した学びのあり方等が今後の課題として挙げられる。

### (1) 少子化を踏まえた高校の将来像の検討について

中学校卒業生数の予測

卒業年/月	2019/3	2022/3	2025/3	2028/3	2031/3	2034/3	2019 -2034	2034/2019
中学卒業生数	1,555	1,479	1,387	1,357	1,250	1,078		
増減2019比		-76	-168	-198	-305	-477	-477	69.3%

旧第9通学区の中学校卒業生の将来予測では、2019年（平成31年）には1,555人だった中学校卒業生数が、2034年（令和16年）には1,078人となり、2019年に対して69.3%まで減少し、その後も少子化が進行する見通しとなっている。

また、第2期長野県高等学校再編計画の期間中である2028年（令和10年）では、中学校卒業生は今よりも約200人減少する見込みであり、これは40人規模学級で5学級に相当する人数の減である。

中学校卒業生が地域外に流出せず、地域外からも生徒を集められるような魅力ある高校づくりも課題の一つではあるが、中学校卒業生自体が大きく減少していく現状においては、必要な生徒数を確保することにも限界があり、地域全体で検討を進めていくことが求められる。

### (2) 多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校の必要性について

当地域においても、多様な学習歴、生活歴等、様々な背景を持つ生徒が増加傾向にあることから、学び直しの場合、進学や就職など将来の進路を見据えての学びの場合、さらに積極的に自己実現を図る場合としての学びの場を提供していくことが課題と考えられる。

#### ア 多部制・単位制の機能を持つ学びの場の検討

旧第9通学区では、現在飯田OIDE長姫高校に夜間定時制が設置され、多様な学習歴や生活歴等の様々な背景を持つ生徒の学びの場として重要な役割を果たしているが、生徒のニーズにさらに応えていくため、より幅広い時間帯での履修が可能となる多部制・単位制の機能を持つ学びの場についての検討が課題と考えられる。

#### イ 通信制課程設置の検討

多様な生徒の柔軟な学びの場として、昨今通信制課程が注目されている。旧第9通学区では、飯田女子高校に狭域通信制が設置され一定の成果を挙げているが、公立高校としての通信制課程は未設置であるため、今後、より柔軟な学びの場として通信制課程の拡充についての検討が必要であると考えられる。

### (3) 地域と連携した学びの推進について

旧第9通学区の公立各高校では、現在それぞれの特色を活かした教育活動が行われているが、社会で生きる力を身に着け、将来の担い手となる人材を育成するためには、地域の人々との関係性づくりなど地域と連携した学びのさらなる深化が求められている。

飯田長姫高校（現飯田OIDE長姫高校）では、平成24年度に松本大学、飯田市とパートナーシップ協定を締結し、その後平成25年4月に開校した飯田OIDE長姫高校において、「地域を愛し、理解し貢献する人材」である「地域人」を育成する「地域人教育」を推進している。

「地域人教育」では、地域の実態・課題・解決策を探る探究的な学び、地域の人と関わる「体験的な学び」、地域づくりの当事者として行動する「実践的な学び」を重視しており、自らの人生を切り拓いていく力をつけるとともに、地域に心の根を置き、誇りをもつことのできる人材の育成を目指している。

これらの実践を踏まえ、各高校において「地域人教育」のノウハウを活用しながら、地域人材育成につながる教育内容の検討が必要と考えられる。

## 3 南信州地域の高校の学びのあり方（将来像）に向けた意見

少子化、生徒のニーズの多様化、地域連携といった課題を踏まえたうえで、自ら未来を切り拓く力の醸成と社会の担い手として主体的にかかわる人材育成を念頭に置き、「南信州地域の高校の学びのあり方(将来像)」に向けた意見をまとめた。

また、「生徒の将来をより良いものへ（生徒の目線）」と「地域の将来をより良いものへ（地域の目線）」といった二つの視点で整理した。

### (1) 生徒にとってより良い高校の学びのあり方

#### ア 多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校について

- ・生活や学習スタイルが多様化している生徒たちの幅広いニーズに応える学びの場
- ・個々の卓越性を伸ばしたり、専門分野に重点化できる学び
- ・学校設定教科・科目等の独自の学びや多様なカリキュラムが設定されている学びの場
- ・社会教育的な要素を取り入れた科目の導入による自ら考え自ら解決する人材を育てていく学び
- ・他者と直に関わり、協調性やコミュニケーション能力を育成するキャリア教育等の学び
- ・国際社会を視野に入れたグローバルな視点での学び
- ・従来の夜間定時制だけでなく、幅広い時間帯で学ぶことができる学びの場
- ・進路変更や不登校の生徒たちの受け皿となるような学びの場
- ・今まで取得した単位が無駄にならず、随時入学が可能で、必要な単位を取得した

時点で卒業できる学びの場

イ 地域と連携した学びについて

- ・地域伝統の文化や産業、地域の歴史等の理解を深める学び
- ・自分と自分以外の人、あるいは生徒自身の内にある知識と体験とをつなぐ学び
- ・地域で活躍する大人の姿に触れあうことによる郷土への愛着を育む実践的な学び
- ・将来の進路実現につながる就業体験やキャリア教育等が充実した学び

(2) 地域にとってより良い高校の学びのあり方

ア 少子化を踏まえた高校の将来像について

- ・リニア中央新幹線の効果を活かした、外部からも生徒が集まるような魅力的なカリキュラムが用意されている学びの場
- ・都市部存立校、中山間地存立校それぞれの特色を活かした、将来にわたり持続可能な学びの場

イ 地域と連携した学びについて

- ・地域人教育の推進等、地域に貢献する人材育成につながる学び
- ・地域の課題を見つけ、地域資源を有効に活用した課題解決型学習を目指す探究的な学び
- ・南信州地域でしか学べないカリキュラムを取り入れた、この地域のエキスパートを育てる学び
- ・魅力ある学科の中で、地域への愛着を持ち地元での活躍につながる学び
- ・地域に根差した地域の教育の拠点となる学びの場

## 4 課題解決に向けた取組み

南信州地域の高校の将来像を考える協議会のこれまでの検討を踏まえ、課題解決に向けて以下の点について提案する。

なお、この提案は、第2期長野県高等学校再編計画の策定に向けまとめた意見ではあるが、再編計画期間を超えた、あるいは地域が主体となって検討すべき取組みもあるため、「(3)中長期的な課題に対する検討」として別項にまとめた。

(1) 多様な生徒の生活・学習スタイルに応えるため多部制・単位制の機能を補完する仕組みを備えた新たな夜間定時制課程の設置

ア 夜間定時制課程に多部制・単位制の機能を補完することの必要性

- ・多部制や単位制といった仕組みがあれば、今まで全日制と夜間定時制しかなかった選択肢がさらに広がるため、生徒の幅広いニーズに応えることができ、現状のシステムではうまく高校に通えない生徒たちの門戸も広がる。
- ・通常4年間で卒業となる夜間定時制に多部制・単位制の機能を補完することにより、全日制と同様に3年間で卒業することが可能となる。

- ・単位制の導入で、今まで取得した単位が無駄にならず生徒の学習意欲にもつながる。
  - ・地域との連携を重視した学校設定教科・科目の開講が期待でき、就業体験及びキャリア教育を通じて社会人として必要な職業観や勤労観の醸成が期待できる。
- イ 具体的な取組み内容
- ・新たな多部制・単位制高校を設置することや、現在設置されている高校を多部制・単位制に転換していくことは現実的には困難であり、既存の夜間定時制を活かしながら、そこに多部制・単位制の機能を補完していく方向性が妥当と考える。
  - ・現在設置されている飯田OIDE長姫高校の夜間定時制を活用し、多部制・単位制の要素を取り込んだ柔軟な学びのシステムを構築することが望ましい。
  - ・多部制・単位制の機能の補完に当たっては、必要となる施設、教職員の適正配置等、運営に支障がないよう十分な配慮が必要である。

## (2) 地域と連携した学びの取組み

- ア 地域の特色についての学び
- ・南信州地域ならではの歴史や文化の学びを高校でも取り入れることで、地域の魅力を知り、地域への愛着を持つ地域人の育成につながると考えられる。
  - ・飯田OIDE長姫高校全日制で行われている「地域人教育」を、同校の夜間定時制や他校にも取り入れ、地域の人々と直接触れ合う学びをこの地域全体で取り組むことが考えられる。
  - ・小中学校でのふるさと学習が高校教育にもつながっていくよう、小、中、高相互の連携を深めていくことが重要と考える。
- イ 地域に定着する人材育成につながる学び
- ・それぞれの時代で必要とされている業種、例えば技術を身に付けた人材等、地域が望んでいる人材の育成に機敏に対応していくことが必要である。
  - ・専門高校においては、将来の地域をけん引する産業人材育成の観点から、時代に適合した専門的知識や技術が習得できるよう、専門教育に必要な設備は先端技術に配慮したものを備えることが望ましい。

## (3) 中長期的な課題に対する検討

- ・本項については、長野県教育委員会だけでなく、南信州地域としても継続して検討していくべきであり、まずは行政機関・教育関係者が連携して取り組む必要がある。
- ア 少子化を踏まえた高校の将来像について
- ・今回の再編整備計画において当地域では高校の統合・再編は想定されていないが、この地域の将来的な学校規模の縮小も見据えた高校のあり方について、関係団体とも連携し、地域全体での検討を継続していくことが必要であり、公立高校だけではなく私立高校も含めた圏域内8高校が一丸となって取り組んでいくことが重要である。
  - ・今後更に少子化が進行していく状況に鑑み、この地域の都市部存立普通校と中山

間地存立校のあり方、あるいは都市部における普通高校と専門高校のあり方等についての検討を進めていくことが重要である。

- ・普通科においては、将来の進路決定に直結するような独自性のあるカリキュラムや学校設定教科・科目等を検討し、それぞれの特色を活かした特徴的で魅力のある学びの場を提供していくことが望まれる。
  - ・専門学科においては、地域の産業を支える人材の育成につなげるため、航空機産業や製造業、農業分野、商業分野といった南信州地域で長年培われた産業について、キャリア教育等を活かしながら深く学んでいくことが望ましい。
  - ・リニア中央新幹線の開通を機に、地域外からも生徒が集まるような高校の魅力化を推進し、南信州地域の魅力と併せて情報発信を行っていくことが必要と考えられる。
  - ・魅力的な高校づくりにより、通学区外への進学者や外部からの進学者を一定量取り込むことは可能と思われるが、少子化の進行により将来的には南信州地域においても再編整備は避けられない状況が予想されるため、来るべき時期に備え、機をとらえてこの南信州地域の高校の将来像についての議論を進めていく必要がある。
- イ 多様な生徒の生活・学習スタイルに応える高校について
- ・将来の子供たちが知識や技能だけでなく、思考力・判断力・表現力あるいは自ら主体的に学ぶ探究的な学び等を、この地域のどの学校でも享受できるような環境を維持していくことが必要である。
  - ・不登校対策も含め、様々な理由から全日制には通えない生徒たちの受け皿を特定の学科に収斂させるのではなく、高校全体あるいは地域全体で支える視点を持って検討していく必要がある。
  - ・夜間定時制、多部制・単位制高校等に加え、公立通信制の設置についても検討を進める必要があると考える。

## おわりに

「南信州地域の高校の将来像を考える協議会」では、この地域にどのような学びが必要か、また、この地域の高校の将来像について議論を進めてきました。

まず、多様な生育歴や学習歴を持つ生徒の進学先として、柔軟な学びの仕組みを持つ多  
部制・単位制について理解を深めてきました。今後ますます多様化すると想定される生徒  
の進路希望に応える意味で、多様な学びの場の必要性を共有してきました。

また、飯田女子高校の通信制が設置されている状況を踏まえ、柔軟な学びの仕組みとし  
て、通信制の学びについても議論が交わされました。

さらに、この地域の高校の学びや将来像については、様々な意見が出されました。その  
中で、共通していた視点は、次代を担う子どもたちにとってどういう学びや学びの場が必要かという点と、地域にとってどういう高校の学びが必要かという視点でした。

少子高齢化の進行の中で、地域人材の育成は非常に重要な課題です。この課題に対して  
「南信州地域の魅力」の学びが必要不可欠であるという意見が多く出されました。これは、  
とりもなおさず、南信州地域を愛する人々の切実かつ率直な願いに外なりません。小学校、  
中学校と同様に、どの高校でも地域の魅力を学び、地域で活躍する人々との触れ合いを通  
じて、地域の課題解決に知恵を出し合い解決策を考えていく探究的な学びを深めていくこ  
とこそ、地域が求めている高校教育の姿だと改めて認識しています。

未来を担う子どもたちが魅力ある多様な学びを享受でき、国内外の重要な課題にも思い  
を馳せることができる地域人の育成につながる高校改革を、県教育委員会に期待します。

## ＜資料＞

### I 南信州地域の高校の将来像を考える協議会 設置要綱

(設置目的)

第1条 この協議会は、南信州地域の将来を見据えた高校の学びのあり方と具体的な制度導入について、長野県教育委員会（以下「県教委」という。）に対して意見及び提案をすることを目的として設置する。なお、意見及び提案の検討にあたっては、県教委が2018年9月に策定した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」に基づくこととする。

(委員)

第2条 この協議会の委員は、市町村長及び市町村教育長、産業界から選出する者、学校関係者、PTA関係者、その他地域の実情に応じた者の内から、南信州広域連合長が20名以内を選出する。委員が欠けたとき、南信州広域連合長は速やかに後任を選出する。

(任期)

第3条 この協議会の委員の任期は、協議会の設置目的を終えるまでの期間とする。

(役員)

第4条 この協議会に会長1名、副会長2名を置き、委員が互選する。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第5条 この協議会は、会長が招集する。

2 会議は公開とする。ただし、会長の判断により一部非公開とすることができる。

(事務局)

第6条 この協議会の事務局は、南信州広域連合と県教委が共同して担うこととし、その役割分担は次の各号のとおりとする。

(1) 南信州広域連合 日程調整及び会議の運営など協議会の運営

(2) 県教委 資料の収集・作成など協議会運営の支援

(補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、この協議会の運営に関し必要な事項は、南信州広域連合長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和元年6月5日から施行する。

## Ⅱ 協議会での検討経緯

- (1) 第1回協議会 令和元年6月5日(水)
  - ・協議会設立までの経過報告、設置要綱確認
  - ・県教育委員会における高校改革の取組みについて
  - ・当協議会における検討項目について
  
- (2) 第2回協議会 令和元年7月16日(火)
  - ・地域内高等学校の現状報告について(県、教育現場等)
  - ・新たな制度(機能)の状況について
  
- (3) 第3回協議会 令和元年9月12日(木)
  - ・圏域内における私立高校及び定時制高校の状況について
  - ・多部制・単位制の機能を補完する仕組みについて
  
- (4) 第4回協議会 令和元年10月31日(木)
  - ・定時制に多部制・単位制の機能を補完することについて
  - ・南信州地域における「高校の学びのあり方」について
  
- (5) 第5回協議会 令和元年12月12日(木)
  - ・第4回会議までの協議経過について整理
  - ・意見・提案書(素案)について
  
- (6) 住民説明会 令和元年12月18日(水) 参加者:約30人
  - ・「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」について
  - ・多部制・単位制高校について
  - ・意見・提案書(素案)の概要について
  
- (7) 第6回協議会 令和元年12月25日(水)
  - ・住民説明会の報告
  - ・意見・提案書(案)について
  - ・まとめ

### Ⅲ 協議会委員名簿

氏名	区分	役職等
牧野 光朗	市町村長	南信州広域連合長 (飯田市長)
宮下 智博	市町村長	松川町長
勝野 一成	市町村長	阿南町長
熊谷 秀樹	市町村長	阿智村長
代田 昭久	市町村教育長	飯伊市町村教育委員会連絡協議会会長 (飯田市教育長)
高坂 敏昭	市町村教育長	松川町教育長
川手 清彦	産業界	飯田商工会議所副会頭
秦 和陽児	産業界	商工会連合会南信州支部長
吉川 賢	産業界	経営者協会飯田支部 (吉川建設株式会社副社長)
寺沢 寿男	産業界	J Aみなみ信州代表理事組合長
木下 久	産業界	(公財) 南信州・飯田産業センター
平出 保	学校関係者	阿智高等学校長
渡邊 浩	学校関係者	松川中学校長
関 耕介	P T A関係者	飯田下伊那P T A連合会会長
土屋 智則	その他地域の実情に 応じた者	南信州地域振興局長
塩澤 哲夫	その他地域の実情に 応じた者	飯田市公民館長